

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション6： 分野横断的な教育・トレーニング

Photo credit: Nick Hall

TRY カキ漁業婦人協会

ガンビア

1) 当プロジェクトの主眼点

TRY カキ婦人協会のビジョンは、地域の女性たちのために、自立や沿岸管理、環境に優しい生計手段を促進することである。当協会の注目すべき任務は、ガンビア社会から最も取り残された団体の1つである「女性カキ水揚げ者」に発言権を与え、持続可能な生計手段の達成を手助けすることである。

TRY は、ガンビアにおけるガンビア・セネガル持続的漁業計画（USAID／バナファア）の貝類漁業管理を実施した。バナファア計画には、TRY のメンバーである15の女性カキ水揚げ者コミュニティの全てが参加した。そのうち、9つのコミュニティは次の通りである。首都バンジュール付近のガンビア川河口にあるラムサール条約登録湿地であるタンビ湿地国立公園、ウエンチョ、カマロ、ジェシュワン、イボ・タウン、ファジ・クンダ、アブコ、ラミン、ケレワン・ダランク、マンディナリ。当計画には、セネガルと共有するアラハイン川河口にあるガンビア南側の国境上のカルトンのコミュニティも参加した。

2009年にTRYは、カキ・ザルガイ漁業の持続的管理のために、参加型で生態系に基づいた共同管理計画過程に着手した。この過程により、タンビ湿地国立公園特別管理区域の官報掲載のカキ・ザルガイ共同管理計画が生まれた。当計画の下でTRYには、当区域のカキ・ザルガイ漁業独占使用権が与えられている。4つの中央政府機関は、TRYと共に計画に調印した。サハラ以南のアフリカで、中央政府により、女性団体に対して漁業における使用権が与えられたのはこれが初めてである。本計画は、利害関係者、主に女性カキ水揚げ者の参加型能力開発に基づいており、女性たちにとって最も重要な社会・経済・環境問題に取り組んでいる。

2) 参加組織およびその他のパートナー

TRY カキ漁業婦人協会は、地域密着型の非営利組織として、2007年に設立された。その理由は、ガンビアで珍味であるカキの需要は高かったが、カキの水揚げに従事する社会・経済的に取り残された女性たちは孤立しており、生計を立て、家族を養うために、ますます苦難を強いられていた。その上、女性たちの多くが世帯主または大黒柱であった。TRYは設立以来、40人のメンバーがいる1つのコミュニティから、500人以上のメンバーを抱える15のコミュニティに成長した。

バナファア計画はUSAID／西アフリカにより資金提供を受け、ガンビア漁業省との協力の下、ロードアイランド大学、沿岸資源センターが運営を行った。WWF 西アフリカ海洋プログラムもパートナーであり、他の協力者には、公園・野生生物管理局、森林省、国家環境局があった。TRYは女性貝類採取者の能力開発を目的とした計画要素を実施した。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

女性カキ水揚げ者の多様で統合的な開発ニーズを満たすための TRY の戦略は、その成功に不可欠であった。漁業による生計手段、代替生計手段、健康、識字能力、財政能力、子供の教育、生計手段の選択肢、女性カキ水揚げ作業の価値に関する市民の意識および認識、マングローブ保全の全てが考慮された。資源使用者自身（TRY 女性カキ水揚げ者）による漁業管理計画開発過程の当事者意識を確実なものにすることも極めて重要であった。この過程における TRY と中央・地方政府の双方の取り組みにより、相互信頼と理解の風潮、権利に基づく参加型アプローチの利益に対する強い関心が生まれた。

TRY の能力開発方法は、下記の要素に基づいている。

- 孤立したカキ水揚げ者コミュニティの組織化と信頼・連帯の構築
- カキ水揚げ者および全レベルの政府利害関係者が全面的に参加する参加型実地研究、専門的研究、相互訪問、貝類管理・価値連鎖向上研修
- TRY コミュニティ管理委員会の設立と同委員会の積極的参加
- 統括協会としての TRY の制度的強化。財政・行政管理能力、事業計画開発、事務所・研修センター設立を含む
- TRY メンバーと TRY の取り組みを支援する政府機関を対象とした指導者育成研修
- カキ祭り（社会への働きかけと、メディアが広く報道する資金調達イベント）
- TRY メンバーのための識字・金銭上の識字研修、小企業管理研修、および、少額貯蓄・融資制度の設立
- 石けん作りなどの代替生計手段の実地研修
- 保健研修と医療サービスの利用可能性
- TRY メンバーの非就学女兒のための職業・生活技能研修
- TRY が開催するマングローブ植林コミュニティイベントを通じて、マングローブ湿地の環境責務における地域指導者として TRY コミュニティを位置づける

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または、同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

ガンビアの貝類資源の持続的管理に取り組む市民社会および政府利害関係機関の双方の能力を開発する過程は、長期にわたる。このイニシアティブ、特に、国にとって主要収入源ではない漁業に対する持続的支援を確保することは、資源の限られた後発開発途上国において難しい課題であり、TRY のような小さな地域市民社会団体にとっては、特にそうである。展開については、権利に基づく漁業共同管理の法的根拠が、ガンビアの 2007 年改訂漁業法とその関連規則により法制化されているという事実により、容易になっている。資源使用者による資源管理過程の当事者意識について、そのような明確な法的枠組みを持つ途上国はそう多くはない。

5) このプロジェクトの次の段階

次の段階の優先事項には下記が含まれる。

- 共同管理計画の実施を継続し、タンビ湿地外の沿岸地域で展開する。
- TRY が開発した統合型パッケージをガンビアのさらなるコミュニティで展開する。
- ガンビアとセネガルが共有するアラハイン川河口で、国境を越えた共同管理計画を続行する。
- カキ・ザルガイ漁業価値連鎖向上と、カキ水揚げコミュニティにおいて女性や弱い立場にある女兒の能力を開発することにより、代替生計手段機会の開発を継続する
- マングローブ保全と再生活動を展開する。

<https://www.facebook.com/TRYoysters/>



ガンビア



ガンビアのタンビ湿地国立公園、6300ha、ラムサール条約登録